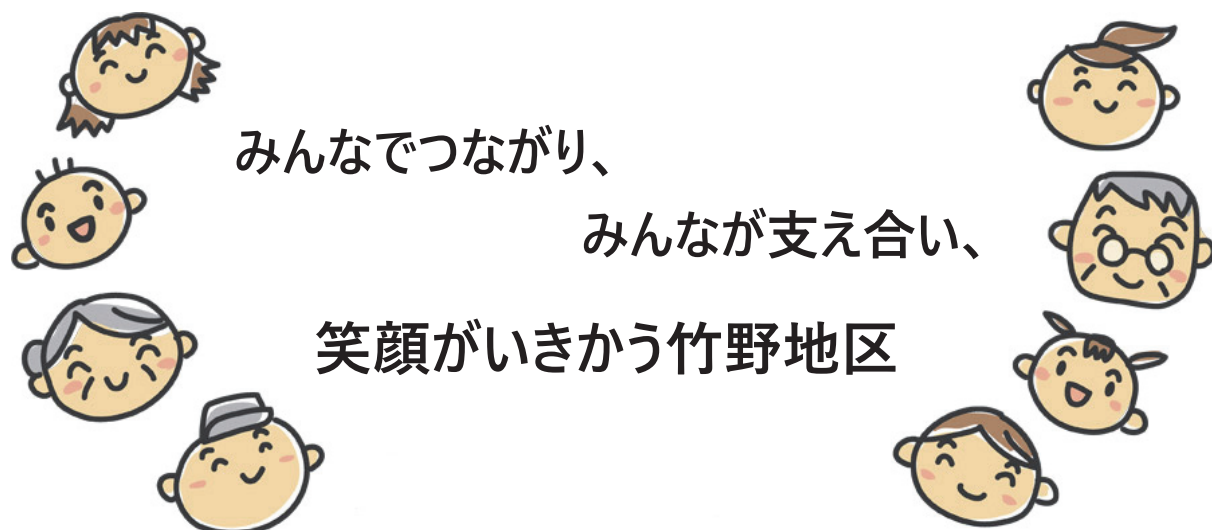


コミュニティだけの地域づくり計画

期間：令和4（2022）年度から令和13（2031）年度まで



目次

はじめに

1. 竹野地区の概要

(地区特徴・人口推移など)

2. これまでのコミュニティたけの

(1) コミュニティたけの はじめの第一歩計画

(2) コミュニティ発足時の組織図

(3) これまでの取組み内容

3. 計画策定の主旨

(1) 地域づくり計画策定の背景と目的

(2) 懇談会での地域住民の声

(3) 住民アンケート調査の実施と集計結果

4. これからのコミュニティたけの

(1) 新しい組織体制

(2) 地域づくり計画
—取り組むべき活動について—

(3) 今後のコミュニティたけのの取り組みについて

「みんなでつながり、みんなが支え合い、笑顔がいきかう竹野地区」
を実現するために

—竹野地区みんなで行こう—

5. 残された課題

6. 策定の軌跡

はじめに

コミュニティたけのは、平成 28（2016）年 12 月に発足しました。地域の 29 団体を構成団体に迎え、私たちが日々の暮らしの中で否応なく大きな関わりを強いられる防災、福祉、振興、人づくりの 4 つを活動の柱とし、「共に助け合い、みんなでつくる活力ある新しい地域コミュニティ」を掲げて地域が一丸となった活動を進めてまいりました。

具体的には、生涯学習事業部会、コミュニティ事業部会、女性の活躍部会及び地域で子どもを育てる部会の 4 つの部会を設置し、課題と部会別構成団体が実施する事業とのすり合せを大切に、取り組みの広がりや深まりを求めてまいりました。しかし、本組織の活動意図や住民自らの関わりを明らかにする手立てが不十分であったためか、コミュニティ活動に対する理解や認知を期待通りに得ることはできませんでした。

このように住民（会員）不在の取り組みであるとの反省から、部会組織の再編についてその必要性が役員会から提起され、令和 2（2020）年度から 3 年度にかけて協議を重ねてきましたが、向こう 10 年を計画期間とする地域づくり計画の推進にふさわしい組織内容に仕上がったものと確信いたしております。

いよいよ新たな部会組織のもとに、10 年先の竹野地域の希望に満ちた姿を描き、これまで以上に厳しくなっていく地域の現実を直視しながら、課題の解決に向け、会員の心をつなげたスタートが切られます。私たちの願いは、「**多様な価値観を認め合い、気軽につながり合う地域**」、「**生活環境が維持できている地域**」、「**安心して帰宅を待てる環境が整っている地域**」、「**伝統や文化が守られている地域**」の実現にあります。

発足当初は、地域の安全・安心、福祉、振興、人づくりの 4 つの課題を掲げ、その解決を「はじめの第一歩計画」に具体化する形で歩み始めました。それから 4 年余りの歳月が経過した今日、次のステップを目指して、しかも 10 年先を見越した計画づくりの着手であり、その中には、今後の新しい公共の担い手としての取り組みも視野に入れた、まさに地域運営組織としての真価が問われる大切な局面ともいえます。

このことを念頭に置きながら、本計画の推進にあたっては、地域住民の一人ひとりが課題と向き合い、その課題解決に向けた話し合いの場を大切にしながら、多くの地域住民がコミュニティ活動へ参画するような組織の在り方、姿を追求できればと思っています。

今後は、実施事業の評価と公表を積極的に取り入れ、透明性を高めることにより多様な地域住民が活動へ参画しやすくします。評価時期として、本計画期間である令和 4（2022）年度から令和 13（2031）年度までの 10 年間を前期 3 年、中期 4 年、後期 3 年の 3 期に分け、それぞれ区分ごとの事業評価とともに単年度ごとの事業評価をもとに、それぞれ 3 期間の事業計画を見直ししながら実践行動に移す行動計画とし、みんなで考え、みんなでつくる活力あるコミュニティを目指す所存です。

令和 4（2022）年 2 月
コミュニティたけの会長 小 高 興 志 美

1. 竹野地区の概要

(1) 地区の特徴

竹野地区は日本海にそそぐ竹野川の河口に位置し、古来、竹野浜にある鷹野神社の「タカノ」に由来すると言われています。

旧竹野村は、江戸時代から明治時代末期までは北前船の寄港地としておいに栄えました。北前船の寄港地にちなんで、昭和 62（1987）年からは北前まつりが開催され、竹野を代表する祭りとなっています。

また、松本地区出身で日本書道界の重鎮「仲田光成」の故郷でもあることから、竹野地区内に石碑が六つ設置され、その功績を讃えています。



北前まつりでの竹野町小唄パレード



JR 竹野駅前にある石碑



(2) 資源や魅力

竹野浜は日本渚 100 選にも選ばれた、白い砂浜と透明度の高い海水浴場が自慢です。山陰海岸はユネスコ世界ジオパークにも認定されており、海からは隆起した岩や兵庫県の天然記念物である「はさかり岩」などをジオ・カヌー（シーカヤック）で見学することもできます。

竹野浜にある北前館の誕生の湯では、竹野川沿いに湧き出したナトリウム・カルシウムの自然温泉を堪能することができます。地元住民の疲れを癒す温泉としても親しまれています。



青が美しい竹野浜



北前館



隆起した岩肌（猫崎半島）

まちの中心には竹野川が流れており、緩やかに海にそそぐ様子を竹野小学校の校歌でも歌い継がれている風景です。

地区内には自分たちで地域を盛り上げようと、様々な団体が活動をしています。駅前には「ばんぷきん」という交流の場を兼ね備えた喫茶店を婦人会と愛育班の有志で運営しています。竹野浜近くの「なごみてえ」ではボランティアの方でカフェを運営しており、週に一度は野菜の直売もされ、近隣住民の憩いの場として愛されています。また、竹野川湊館では、地域住民の作品の展示も積極的に行われ、発表の場としても重宝されています。

産業は、漁業・農業・観光業と多様な産業があります。

竹野漁港では夕方4時になるとサイレンを鳴らし、セリの始まりを知らせています。近年では竹野漁港の賑わいづくりとして、月に一度「海町マーケット」も開催され、また、近隣住民のために鮮魚などを漁協で直売する取り組みも実施されています。

農業は、田んぼではふるさと但馬米などが生産され、畑では四季折々の野菜が丹精込めて作られています。

観光業は、夏は海水浴、冬はかにすきと海の近さを生かした民宿、旅館業が主ですが、竹野で水揚げされた新鮮な魚介類や農産品を活かしたお食事処も点在しています。





①竹野駅



②竹野地区コミュニティセンター



③竹野の集いの喫茶 ぱんぷきん



④川湊館で地域グループの作品展



⑤ブラリと寄りたい なごみてえ



⑥羽入地区 東屋からの眺望

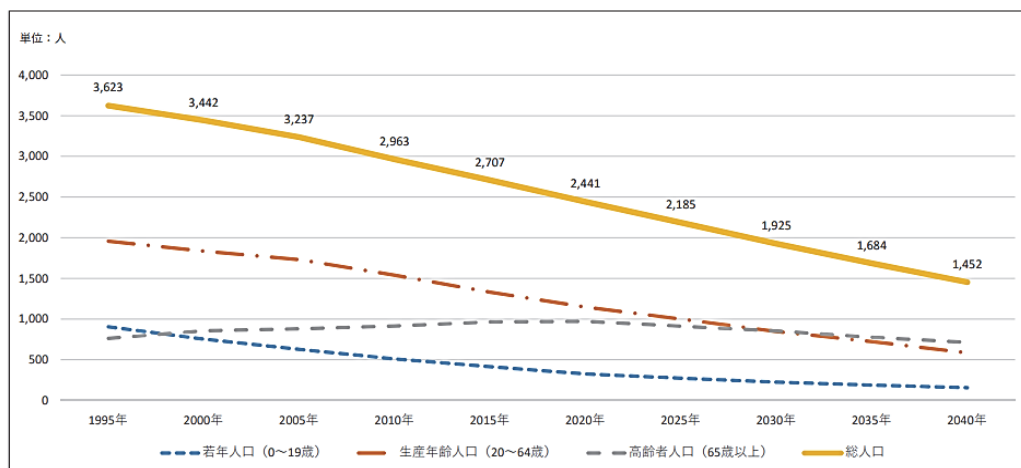
(3) 竹野地区の人口と高齢化率

竹野地区も確実に人口の減少、高齢化が進んでいます。竹野小学校の児童数も令和 3 (2021) 年は 110 名程度になっています。しかしながら高齢者の数は減少率が低い状態が続きます。下図の人口推移を見ていきましょう。

【竹野地区】 総人口と年齢三区分別人口の推移

単位：人

竹野地区	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
若年人口 (0～19歳)	904	752	626	510	413	324	272	225	188	155
生産年齢人口 (20～64歳)	1,957	1,834	1,731	1,539	1,330	1,146	1,000	846	722	584
高齢者人口 (65歳以上)	762	856	880	914	964	971	913	854	774	713
総人口	3,623	3,442	3,237	2,963	2,707	2,441	2,185	1,925	1,684	1,452



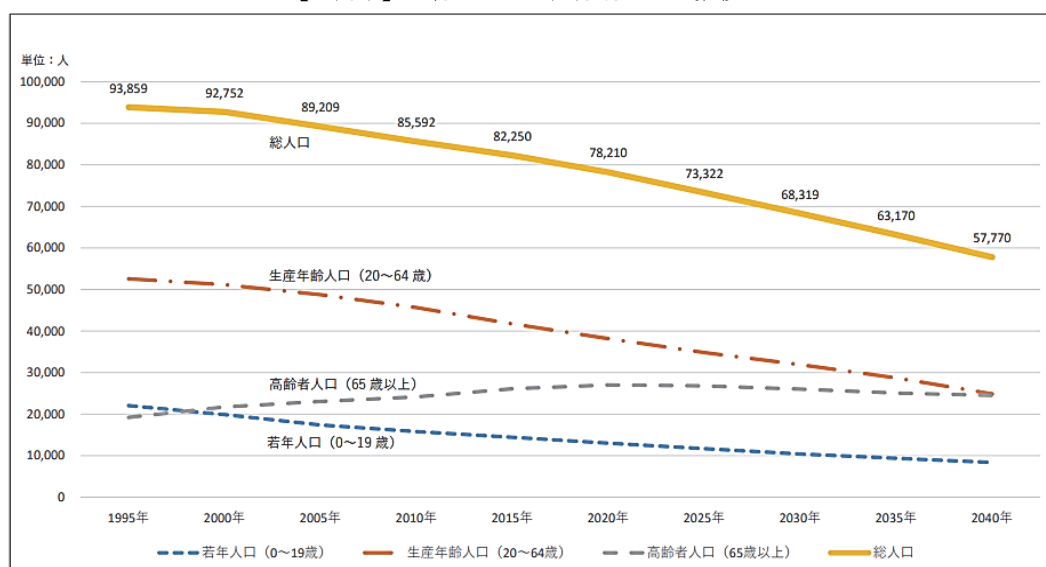
※年齢不詳者の按分等により、年齢別人口の合計と総人口が一致しない場合がある。

【出典】豊岡市人口ビジョンより

令和 2 (2020) 年の人口は 2441 人です。高齢化率は 39.7%です。豊岡市全体の高齢化率は 32.9%ですので、比較すると 6.8%上回っています。

令和 22 (2040) 年の人口は 1452 人と減少し、高齢化率は約 49%と予想されており、さらに上昇する見込みとなっています。

【豊岡市】 総人口と三区分別人口の推移



	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
若年人口 (0～19歳)	22,051	19,878	17,392	15,798	14,426	13,013	11,697	10,403	9,377	8,374
生産年齢人口 (20～64歳)	52,581	51,152	48,755	45,643	41,710	38,168	34,829	31,903	28,713	24,873
高齢者人口 (65歳以上)	19,227	21,722	23,061	24,151	26,114	27,029	26,796	26,013	25,080	24,523
総人口	93,859	92,752	89,209	85,592	82,250	78,210	73,322	68,319	63,170	57,770

【出典】豊岡市人口ビジョンより

2. これまでのコミュニティたけの

(1) コミュニティたけの はじめの第一歩計画

生涯学習の場として住民が参加する場であった公民館から、将来を見据え住民が自治に参画していく必要性から、市の公民館はコミュニティ組織に移行しました。それに伴い、コミュニティたけのは平成 28（2016）年度に発足し、実質の取り組みはその翌年度から「はじめの第一歩計画」を打ち出し、コミュニティ組織として活動を開始しました。

コミュニティたけの はじめの第一歩計画

キャッチフレーズ:「地域に自信を 誇りと夢ある竹野地区」

事業計画

事業名	H29	H30	H31	H32以降
「力を合わせて」体育まつり	●	●	●	●
「来て見てわくわく」文化まつり	●	●	●	●
「生涯学習！」竹野学園	●	●	●	●
「乗って守ろう」公共交通	●	●	●	●
「灯りとともそう」なごみの灯り	●	●	●	●
「自然で遊ぼう！」鋳物師辰峠の大岩からジャジャ山まで歩こう	●	●	●	●
「空き家も財産！」空き家実態把握	○	●	●	●
「有事の際の命綱」地域防災	○/●	●	●	●
「みんなで楽しく」バザーで協賛	●	●	●	●
「おいしく食べよう」地産の料理教室	●	●	●	●
「探検しよう」こどものふるさと学習	○/●	●	●	●

注) ○→事業検討 ●→事業実施

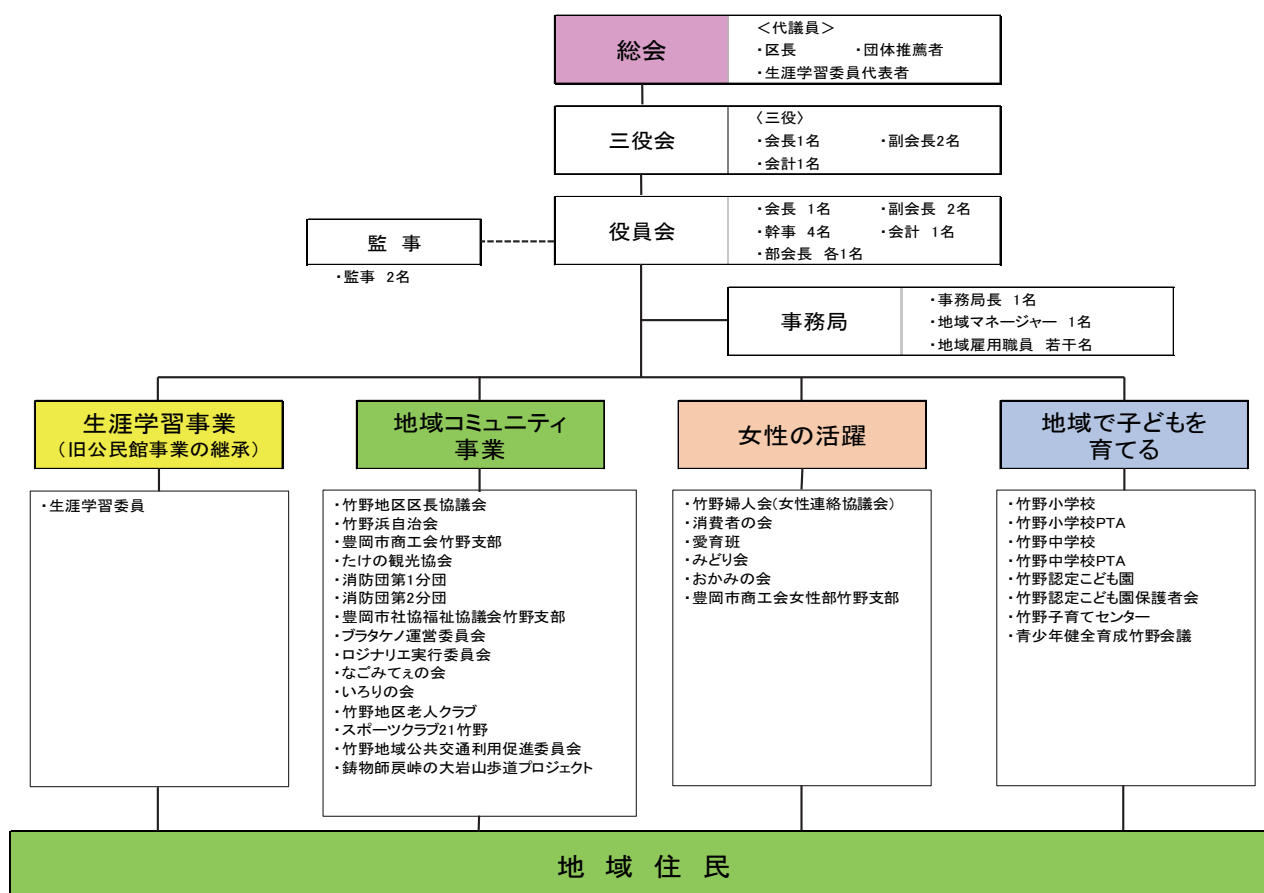


体育まつりの様子



救命救急講習会の様子

(2) コミュニティたけの発足時の組織図



(3) これまでのコミュニティたけの取り組み内容

① 生涯学習事業部会

スポーツ・文化事業など公民館時代の事業を主に 42 名の生涯学習委員が主体となって活動を進めてきました。

主な事業内容としては、体育まつり・文化まつりがあります。その他にも各種生涯学習事業等、竹野地区住民への学びの機会づくりを担ってきました。



パソコン教室



高齢者講座の竹野学園

② 地域コミュニティ事業部会

コミュニティの核となる地域振興、地域防災、地域福祉の事業を展開してきました。主な事業として、地域防災では救命講習会や防災学習会、地域福祉では支え合いマップづくりの推進、地域振興では登山大会やウオーキング事業など活動は多岐にわたりました。



救命講習会



城山登山大会

③ 女性の活躍部会

地域住民の健康推進事業を主に担ってきました。週に一度の玄さんの元気教室では、筋トレやストレッチなどで体を整えたりしています。

また、食から健康になることを考え、料理の講習会や研修会も実施しました。



玄さん元気教室



料理教室

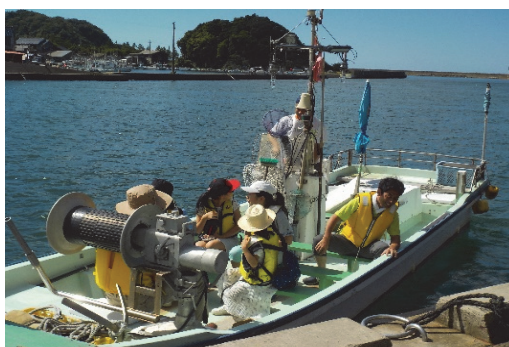
④ 地域で子どもを育てる部会

「もっと竹野を知り、もっと竹野を好きになろう！」を合言葉にふるさと竹野を子どもたちに愛してもらおうと活動を推進してきました。

まちあるきやハイキングで行ったことのない地区へ行ったり、船に乗って海から島や陸を眺めるジオパーク学習も行いました。



松本・羽入へまちあるき



船に乗ってジオパーク学習

3. 計画策定の主旨

(1) 地域づくり計画策定の背景と目的

地域コミュニティ組織が地域それぞれに沿った活動をしていくためには、各地区で地域の実情を捉え、ビジョン（展望）や目標を持つことが大切です。地域づくり計画は、それら具体的なビジョンを持って地域の目指す将来像に向けた活動内容を定めるもので、地域の行動計画とも言えるものです。

地域活動の拠点を竹野地区コミュニティセンターとして10年先の竹野の将来を見据え、持続可能な活動計画の策定を目的としています。

まず、現在の営みを支える地区が抱える多くの課題を優先順位や重要度などを検討し、無理なく地区住民の想いに寄り添った竹野地域づくり計画を作成するため、住民の方の思いや声を伺いました。

(2) 懇談会での地域住民の声

コミュニティたけのが設立されてから2年が経過しても、公民館とコミュニティ組織との違いが住民の間に浸透していないのではないかと役員会で声上がり、各行政区とコミュニティとの懇談会を実施したところ、コミュニティ組織の活動がまだまだ浸透していないことが改めて確認されました。それと同時にコミュニティ組織の成り立ちや活動の理解を深める場ともなり、大変有意義な懇談会となりました。

また、この機会を通じて地域住民の竹野地区への思いや暮らしの上での課題を聞き取ることが出来ました。



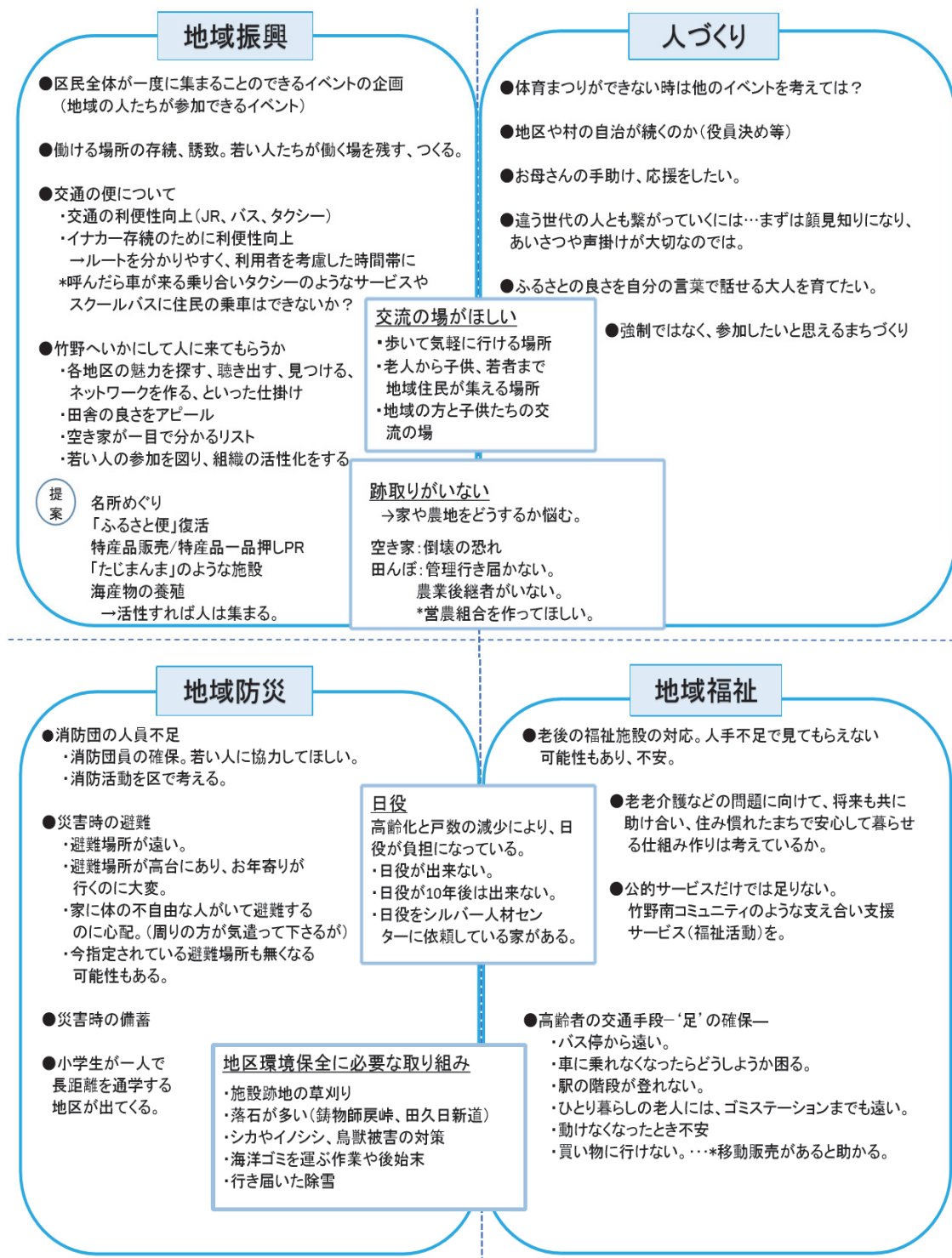
西町の懇談会の様子



羽入の懇談会の様子



上町・下町・馬場町・中町は
合同開催



注）住民の声を課題別に分類

(3) 住民アンケート調査の実施と集計結果

令和2（2020）年には地域づくり計画のもととなる住民アンケートも実施しました。調査は、地域でリーダー的な立場にある区長、コミュニティ構成団体の代表者及び生涯学習委員の計79名を対象としました。

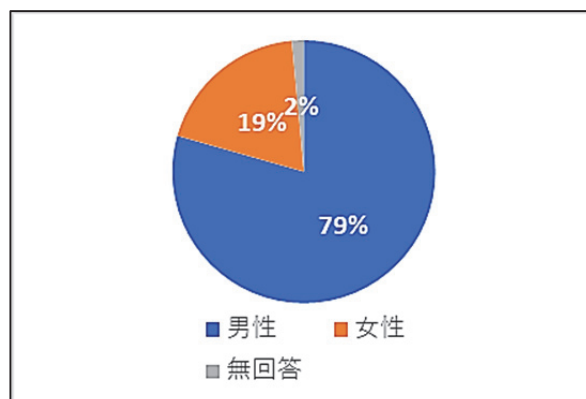
地域コミュニティに関するアンケート調査結果

調査数 68 人（79 通配布／回収率 86%）

1.回答者自身について

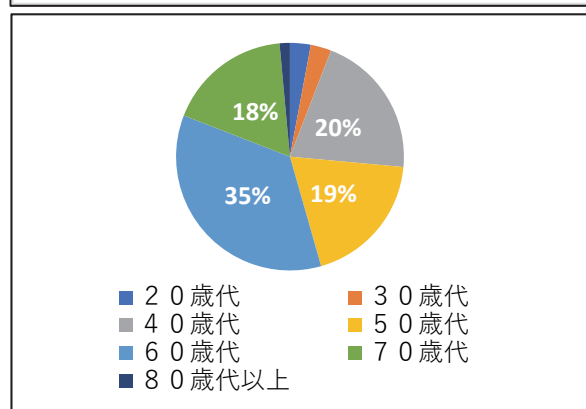
(1)性別

性 別	人 数	%
① 男性	54	79
② 女性	13	19
③無回答	1	2
計	68	100



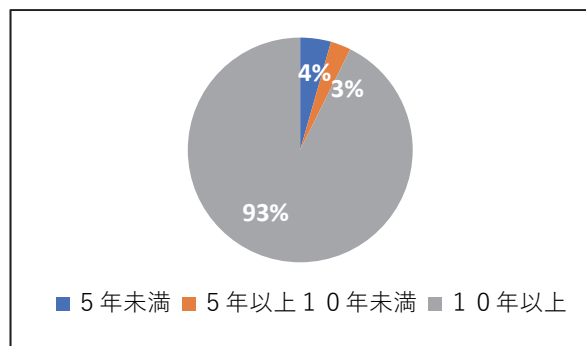
(2)年齢

年 齢	人 数	%
① 20歳代	2	3
② 30歳代	2	3
③ 40歳代	14	20
④ 50歳代	13	19
⑤ 60歳代	24	35
⑥ 70歳代	12	18
⑦ 80歳代以上	1	2
計	68	100



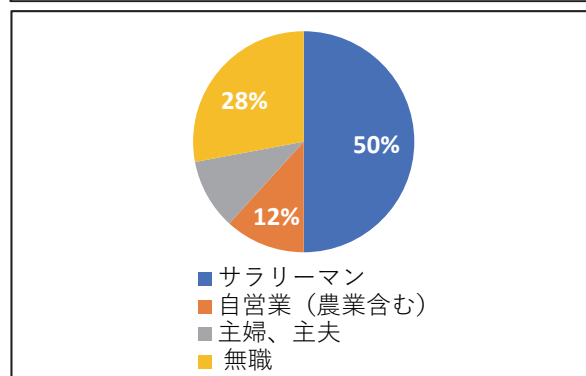
(3)居住年数

居 住 年 数	人 数	%
① 5年未満	3	4
② 5年以上10年未満	2	3
③ 10年以上	63	93
計	68	100



(4)職業について

職 業	人 数	%
① サラリーマン	34	50
② 自営業（農業含む）	8	12
③ 主婦、主夫	7	10
④ 無職	19	28
計	68	100



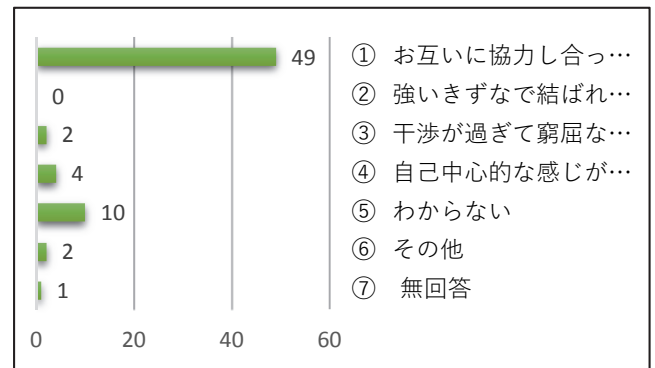
【現状と考察】

調査対象者の数が絞られたこともあり、回答者の8割以上を男性が占める結果となりました。これは、地域コミュニティに関する役職に就く男女比の実態が表れていると思われます。また、年代は50代以上が占める割合が74%、10年以上住み続けている割合が9割以上を占めています。

2.お住いの区について

(1)お住いの区についてどのように感じておられますか。

区 の 感 じ	人 数	%
① お互いに協力し合って生きている	49	72
② 強いきずなで結ばれている	0	0
③ 干渉が過ぎて窮屈な感じがする	2	3
④ 自己中心的な感じがする	4	6
⑤ わからない	10	15
⑥ その他（ ）	2	3
⑦ 無回答	1	1
計	68	100

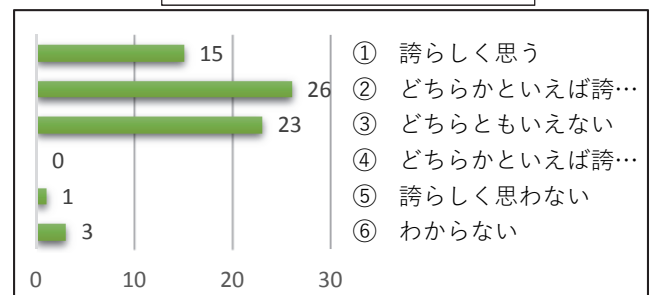


(2)お住いの区を誇らしく思われますか。

区を誇らしく思うか	人 数	%
① 誇らしく思う	15	22
② どちらかといえば誇らしく思う	26	38
③ どちらともいえない	23	34
④ どちらかといえば誇らしく思わない	0	0
⑤ 誇らしく思わない	1	2
⑥ わからない	3	4
計	68	100

(3) 問(2)で④⑤と答えた理由

世間が狭い



【現状と考察】

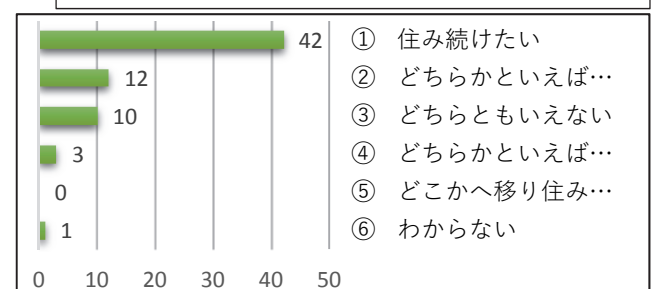
区の様子や区について誇りに思うかという設問では、「お互い協力し合って生きている」や「誇らしく思う」「どちらかといえば誇らしく思う」という回答が過半数を超えています。しかし、「わからない」「どちらともいえない」という回答も比較的高くなっており、区を意識する認識の度合いが表れていると考えられます。また、「誇らしく思わない」という回答の理由について「世間が狭い」という意見があり、干渉が過ぎて窮屈な感じがするという意見も少なからずありました。

(4)お住いの区に、住み続けたいと思いますか。

区に住み続けたいと思うか	人 数	%
① 住み続けたい	42	62
② どちらかといえば住み続けたい	12	17
③ どちらともいえない	10	15
④ どちらかといえばどこかへ移り住みたい	3	4
⑤ どこかへ移り住みたい	0	0
⑥ わからない	1	2
計	68	100

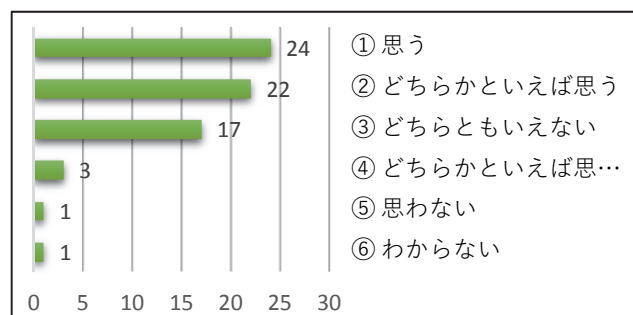
(5) 問(4)で④⑤と答えた理由

- ・ 色々な役員をしないといけない
- ・ 何かと不便
- ・ 干渉、誹謗中傷のない地域へ移り住みたい



(6)区のために何か貢献できることがあれば、進んで取り組みたいと思いますか。

区に貢献できれば取り組むか	人 数	%
① 思う	24	35
② どちらかといえば思う	22	32
③ どちらともいえない	17	25
④ どちらかといえば思わない	3	4
⑤ 思わない	1	2
⑥ わからない	1	2
計	68	100

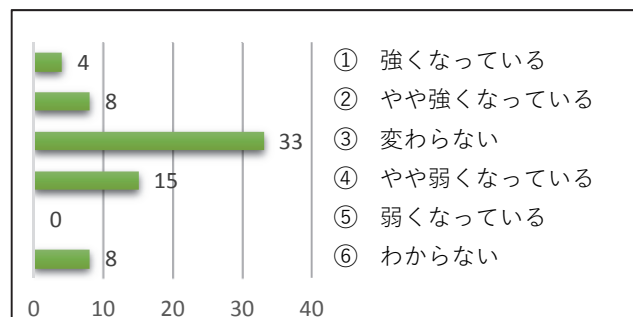


(7) ➡(6)で①②と答えた方、どのようなことが考えられますか。

- ・草刈り、ゴミ拾い
- ・区の老人会や祭りの時の人手不足の手伝い
- ・自分の出来る範囲の中で貢献したい（草むしり、高齢者宅のゴミ出し、墓掃除等）
- ・グループ、組織や役員などで区のために貢献したい
- ・高齢者の手伝い、見守り支援
- ・高齢者に対して住民同士のふれあいの場づくり、認知症の方への区内住民での見守り
- ・美化のための活動、区内の川や区道の掃除
- ・周辺の草刈り、除雪
- ・住みやすい環境を整える
- ・世代を超えて「挨拶」から始まり何でも話し合える雰囲気づくりをしたい
- ・竹野町＝ふるさとのためにできること。竹野町のよさを発信する活動や活性化させる活動
- ・山川海に囲まれた自然豊かな地区、この自然を四季を通じて誇らしさを演出したい
- ・区の発展に関すること、区のレベルを上げること
- ・何をすればいいかわからないので、依頼があり、自分で出来る、出来そうなものがあれば協力したい
- ・分からない、思案中
- ・機会があれば、何か困っているのか等を区民に聞いて考えたい

(8)区の住人同士のつながりについて、どのように感じられますか。

区の住人同士のつながり	人 数	%
① 強くなっている	4	6
② やや強くなっている	8	12
③ 変わらない	33	48
④ やや弱くなっている	15	22
⑤ 弱くなっている	0	0
⑥ わからない	8	12
計	68	100



(9) ➡(8)で④⑤と答えた方、どのようなことが感じられますか。

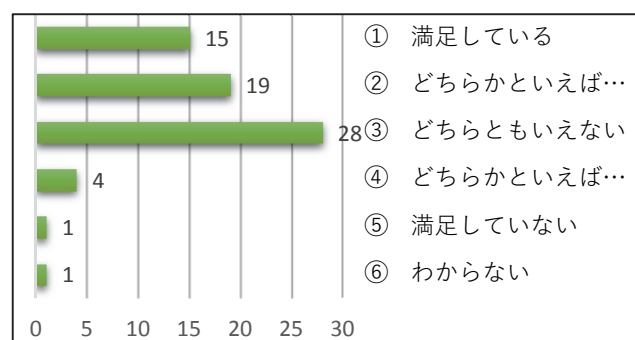
- ・高齢者が増え、外へ出る機会が少なく、顔を合わす事も少なくなった
- ・区民が集まるイベントが少ない。また、高齢化により、イベント参加を辞退されるケースが増えている
- ・お互いの集会とか話し合いをしない
- ・区民全体での行事が日役以外無くなった（以前は、盆踊りなど互いに顔を合わせる機会が多くあったが）
- ・前は、婦人会ならほとんど全部の人が入っていて、横のつながり縦のつながりが普通にあったが、今は自由で特定の人とはつながりが強いが、限られているように思う
- ・以前のように家で葬式をしたり、近所で新年会をしたりすることが無くなって、近所の人の情報も分からない
- ・若い人が少なく、お年寄りの言動に振り回されることがあり、心が折れる
- ・価値観の多様化による意識の変化
- ・若者が少ないので活気がなくなってきているように感じる

【現状と考察】

住民同士のつながりについて①「強くなっている」に②の「やや強くなっている」を加えても 18%と低い数値になっています。その理由については、問(13)でその理由が明らかにされており、区民同士が顔を合わせ、触れあう機会が少なくなっている現状をうかがい知ることができます。しかし、③「変わらない」と「分からない」を加えると 60%の人が区の変化を感じていないと回答していることから、17 行政区の各区の実状には少なからず差異があると言えます。

(10)お住いの区に満足していますか。

区に満足しているか	人 数	%
① 満足している	15	22
② どちらかといえば満足している	19	28
③ どちらともいえない	28	40
④ どちらかといえば満足していない	4	6
⑤ 満足していない	1	2
⑥ わからない	1	2
計	68	100



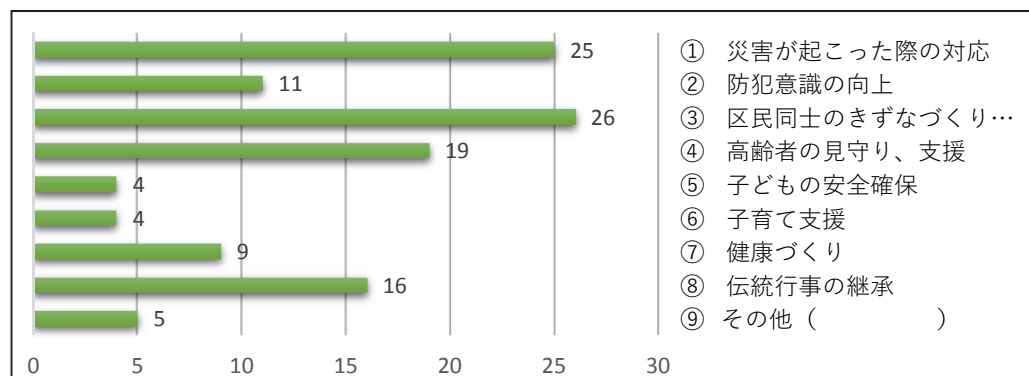
(11) ➡(10)で①②と答えた方、それはどのような点ですか。

- ・長年住み慣れた地区なので安心感がある
- ・生まれ育ち、住み慣れた環境だから
- ・協力しあえている。近所のあいさつ、近所付き合い
- ・あいさつできる関係性、子どもを近所の方にかわいがっていただいております、地域に育ててもらっていると感じる
- ・まあまあ近所どうし仲が良く、区の行事にも協力的である
- ・小さい区で比較的まとまりがあり、伝統を守りながらも、省略できることは行い、目新しいことも取り入れている
- ・ある程度だが、何事にも頼めば協力的である
- ・地域(区)の人々の顔が見えること。互いに程良い距離を保ちながら、支え合っていること

- ・ご近所の人たちが、一定の線引きというか、助け合う時は助け合うのですが、プライバシーのことなどあまり入りすぎない心配りがあるようなところ
- ・何かの分野で突出した感も無く、静かな感じはするが、過干渉や無関心もなく、程良い感じ
- ・住環境が良い
- ・学校、スーパーが近く、便利な点
- ・特に何も無いことが満足
- ・歳とともに故郷の良さ（旧知人、親族、自然、美しさ）を改めて感じる
- ・海のある風景はゆったりと過ごせる

(12) 取り組みが必要と思われる課題をお教えてください（複数回答）

取り組みが必要な区の課題	人 数	%
① 災害が起こった際の対応	25	21
② 防犯意識の向上	11	9
③ 区民同士のきずなづくり （ふれあいの場づくり）	26	22
④ 高齢者の見守り、支援	19	16
⑤ 子どもの安全確保	4	3
⑥ 子育て支援	4	3
⑦ 健康づくり	9	8
⑧ 伝統行事の継承	16	14
⑨ その他（ ）	5	4
計	119	100



【現状と考察】

この設問は複数回答可で、最重要課題を選択した人や重要な課題として複数の課題を選択した人など、それぞれの思いが明らかとなっています。選択された課題を見ると、③の「区民同士のきずなづくり（ふれあいの場づくり）」が 22%で最も高く、次いで①の「災害が起こった際の対応」が 21%、④の「高齢者の見守り、支援」が 16%、⑧の「伝統行事の継承」14%の順になっています。ここからは、区民同士のきずなづくりとそのための場づくりが大切であるという思いや居場所・集える場所の必要性がうかがえます。また、いつ起こるか分からない災害に備えて、地域防災の取り組みや自主防災組織のさらなる充実に向けた支援がコミュニティには課せられていると考えられます。

⑤と⑥については、アンケート調査対象の年齢層や子育て親世代を含むかどうかで選択する人が増減する項目であると推測されるため、今回の調査ではともに3%と少ない結果となっています。

以上の懇談会やアンケート調査の結果から、地域住民の皆さまが暮らしの中で様々な分野において困りごとや課題を抱えており、また、声に上がっていない問題も潜在していることが考えられます。

中でも、人口減少や高齢化に関わる問題について多くの声が聞かれました。現状としても、立ち行かなくなった行政区が万一出てきたらどうするか、といったところまで今後考える必要が出てくるかもしれません。

しかし、地域住民で「地域をどうしていこうか」と話し合う基盤があることで、地域住民自身の暮らしに影響のある地域課題に自ら対応していくことができます。それは、人が減っていったとしても地域に住む人が幸せに安全に暮らしていくために、力や考えを合わせて一緒に取り組めることを意味します。

4. これからのコミュニティだけの

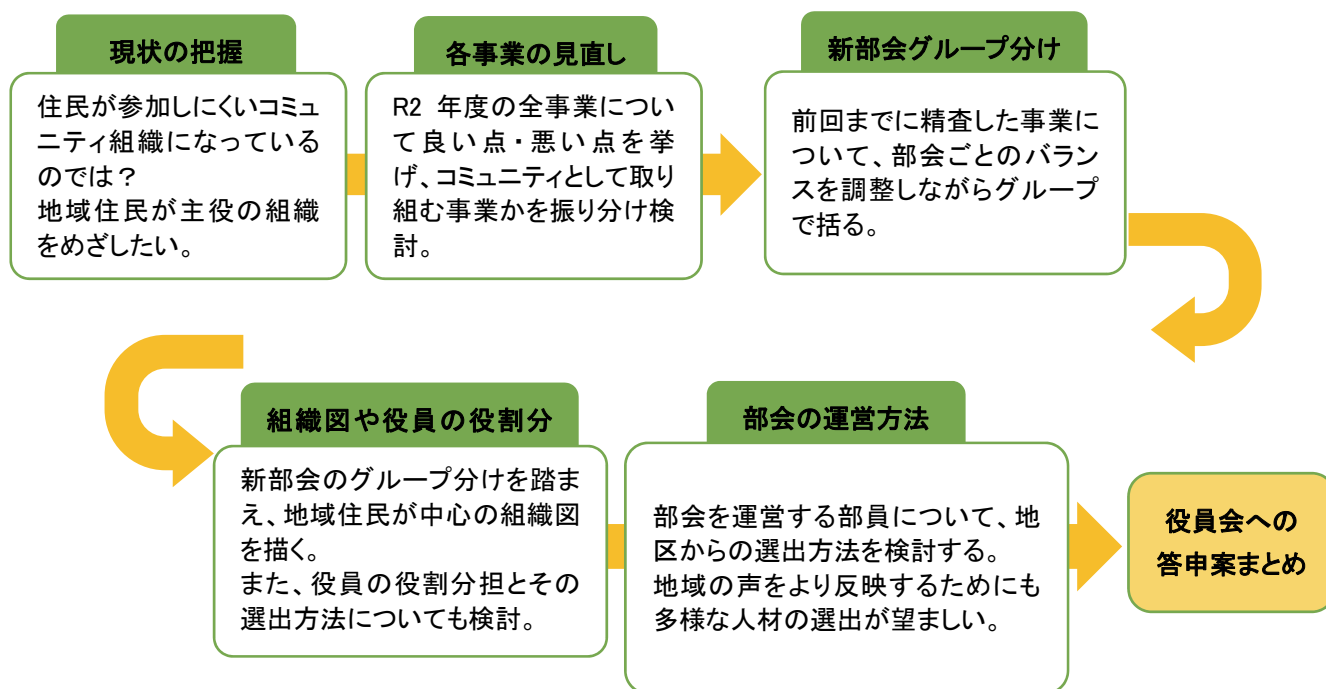
(1) 新しい組織体制

発足当初から「はじめの第一歩計画」に基づき、事業の広がりや深まりを求めて部会内の団体が実施する主体事業を尊重し、団体との連携しながら、地域課題の可視化と共有に努めてきました。それは、組織を構成する団体個々の体力や負担を考慮したうえで、部会ごとの新規事業は計画せず、既存事業と地域課題のすり合わせをこれまで以上に意識し、課題の明確化と事業効果の検証に重きを置こうとするものでした。しかし、コミュニティ事業であることを前提に事業の広がりや深まりを部会内団体の連携強化に求めるも、団体の中にはコミュニティ組織の支援を受けた事業実施であるかのような受け止めも一部見られ、総じて団体の枠を脱しきれない様子やコミュニティ組織へ組することへの窮屈さからか負担さえ感じられるようになりました。

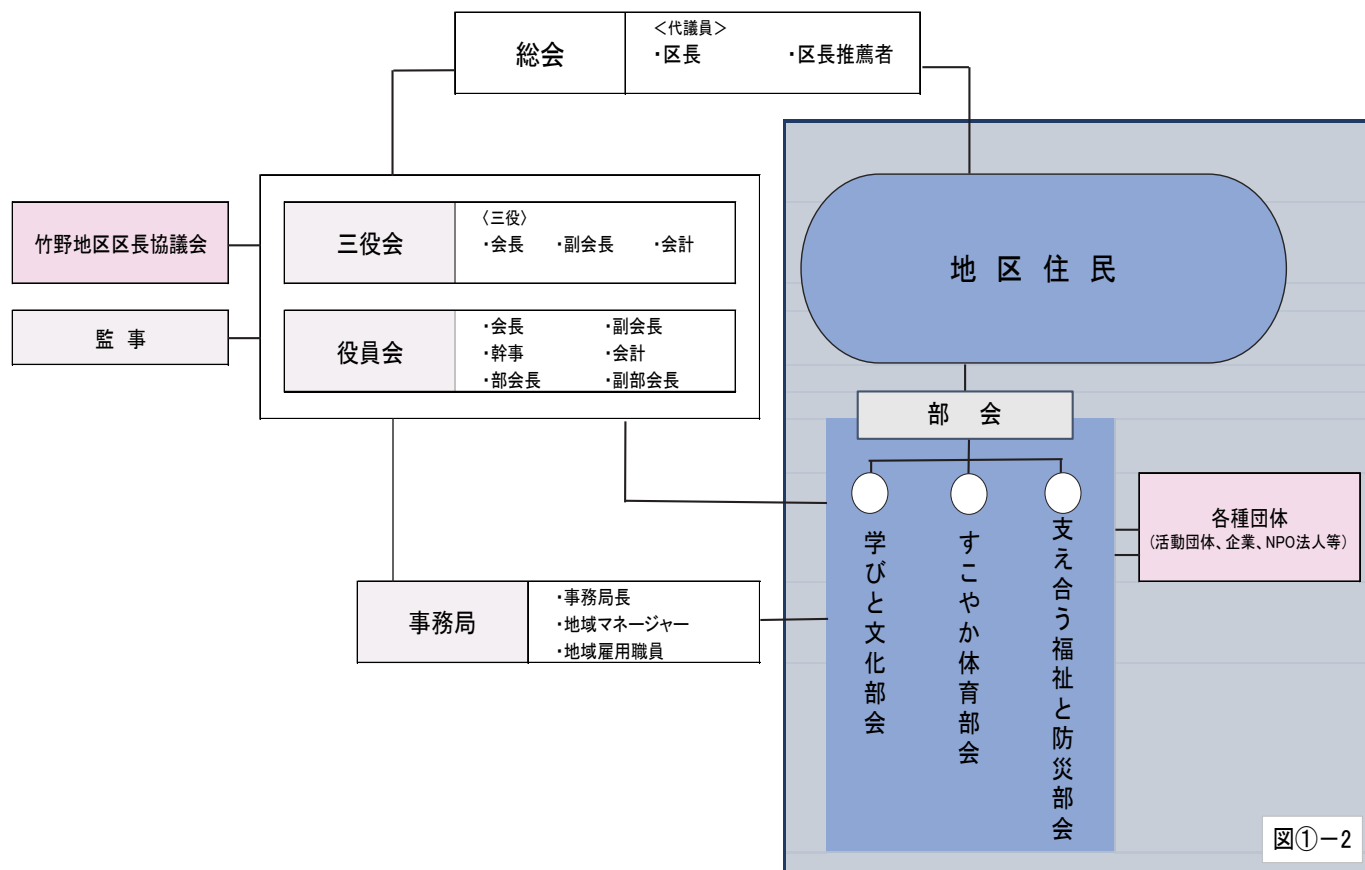
このような中で、10年先を見据えた地域づくり計画を実践していくことへの疑問とともに、地域住民の自主的な事業参画が極めて不十分であったなどの反省から、地域住民主体の取組みを模索する方向へ舵を切ることになったのです。それは、個々の団体主体の事業とコミュニティ組織として取り組む事業を差別化し、地域課題の解決に資する事業の絞り込みと事業を課題別に振り分けることで、課題と向き合い事業の目的達成をしっかりと掲げて取り組もうとする課題別組織再編の道を目指すことになりました。

令和2（2020）年6月、組織再編検討委員会を設置し、8名の委員を中心に翌年の5月にかけて都合17回の会議を重ねました。その後、検討素案を本会の役員会にて諮り案としてまとめ、同年10月に開催した臨時総会において、新しい組織体制（p17 コミュニティだけの新組織図①）が承認されました。これまで、地域住民の皆さんがコミュニティ活動へ参画する機会が、生涯学習事業に限られておりましたが、今後は、「学びと文化部会」、「すこやか体育部会」及び「支え合う福祉と防災部会」の三つの専門部会へと拡大し、令和4（2022）年4月1日より、活動がスタートします。（p17 コミュニティだけの新組織図①-2）

組織再編検討委員会の協議経過



コミュニティのための新組織図①

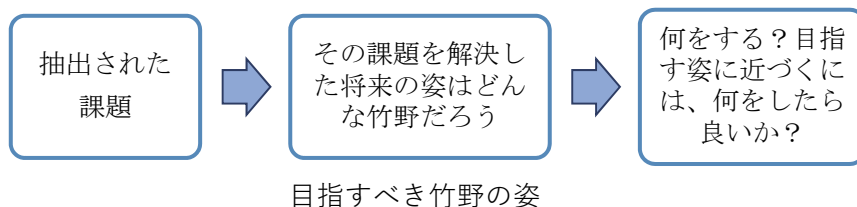


（２） 地域づくり計画 —取り組むべき活動について—

「みんながつながり、みんなで支え合い、笑顔がいきかう竹野地区」に近づく手順としては、地域住民からの声から課題を抽出し、その課題に沿ってどんな事業がコミュニティとして取り組めるかを話し合いました。

策定委員会の協議の経過

開催日	内容
第1回目 6月11日	<p>コミュニティの役割について、「地域づくり計画」策定の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのコミュニティだけの体制は住民が主体となっていると言いきくが、再編により住民主役の体制へ。 ・住民の意見はアンケートや懇談会などですでに集まっている。これを委員で分析したり、もう一度整理しなおす作業をしていく。 →“今実際にやっていること”と“これから必要になっていくこと”のすり合わせを今後行う。
第2回目 7月9日	<p>竹野地区における各調査のまとめから地区の「本当の課題」を抽出</p> <p>①地域振興②住民自治の項目について何が様々な意見を出す。</p>
第3回目 7月30日	<p>前回の「各調査のまとめ」の続きの項目について、課題の抽出</p> <p>③生活環境④防災防犯⑤地域福祉について現状の課題や困りごとについて意見を出す。</p>
第4回目 8月20日	<p>課題の取りこぼし（課題の不足分）を確認</p> <p>前回までにピックアップされた課題から、項目ごとに「目指す将来の姿」と「取り組み内容」を考える。</p>
第5回目 9月17日	<p>「課題→解決した将来の姿(竹野として目指すべき姿)→何をする？何をしたら良いか？」</p>
第6回 10月7日	<p>引き続き、「課題」「目指す将来の姿」「取り組み内容」を残りの項目も考える。</p>
第7回 11月5日	<p>「事業別工程表」の取組み事業案の例示を考え、表に埋め込む。最終確認する。</p> <p>再度修正しながら、事業アイディアを絞り出す。</p>
第8回 11月9日	<p>こういう会議の場をさらに広げて参加してもらいたいという意見が多く出る。</p>



策定委員会から答申された取り組み活動の案

課題	目指す将来の姿	取組内容
交流が少なく地域内の繋がりが薄い	多様な価値観を認めあい 気軽につながれる	<u>体育まつり（開催方法を見直す）</u> <u>文化まつり（フリーマーケット）</u> うみまちマーケットへの出店支援 <u>提案型イベント</u> <u>地域住民からの声を実現する</u> 地域住民全員ラジオ体操（竹野浜等） 餅つき大会（コミュニティ駐車場） 2度うま井
日役等の維持	生活環境が維持できてる	<u>区を越えた連携</u>
生活道路の危険性	安心して帰宅を待てる環境	帰りますアナウンス 防犯カメラの設置 街灯の設置
伝統行事の継承	伝統や文化が守られているまち	盆踊り/相撲甚句 焼き板の街並み 北前船の話し 祭り（川下（かわそそ）・秋）
移動交通 防犯・防災 ゴミステーションまで遠い 老々介護等々	安心して住み続けられるまち	<u>困りごとの把握・調査</u> <u>仕組みづくりを考える</u> <u>支え合いマップ</u> <u>防災体験訓練</u>

※コミュニティだけのとして取り組む事業については、下線を入れています。



地域づくり計画策定委員会からの答申を受け、役員会で取組内容や目指す将来の姿を設定

策定委員会の協議にあたって

私は竹野で生まれ育ち、高校卒業後、約5年間は竹野を離れて進学・就職していましたが、地元に戻り住めるように、竹野に帰ってこられました。竹野には約35年住んでおり、竹野のことはよく知っているつもりでしたが、この地域づくり計画策定委員を拝命し、地域の先輩の皆さまや、それぞれの専門分野で活躍されている委員の皆様と議論を交わしていると、竹野のことでも知らないことが多くあり、私自身の勉強となるいい機会でした。皆様にもこのような話し合いの場へ参加する機会がありましたら是非参加していただき、地域について一緒に考えるきっかけになれば良いと思います。

地域づくり策定委員会 委員長 田中健太郎



(3) 今後のコミュニティたけのの取組みについて

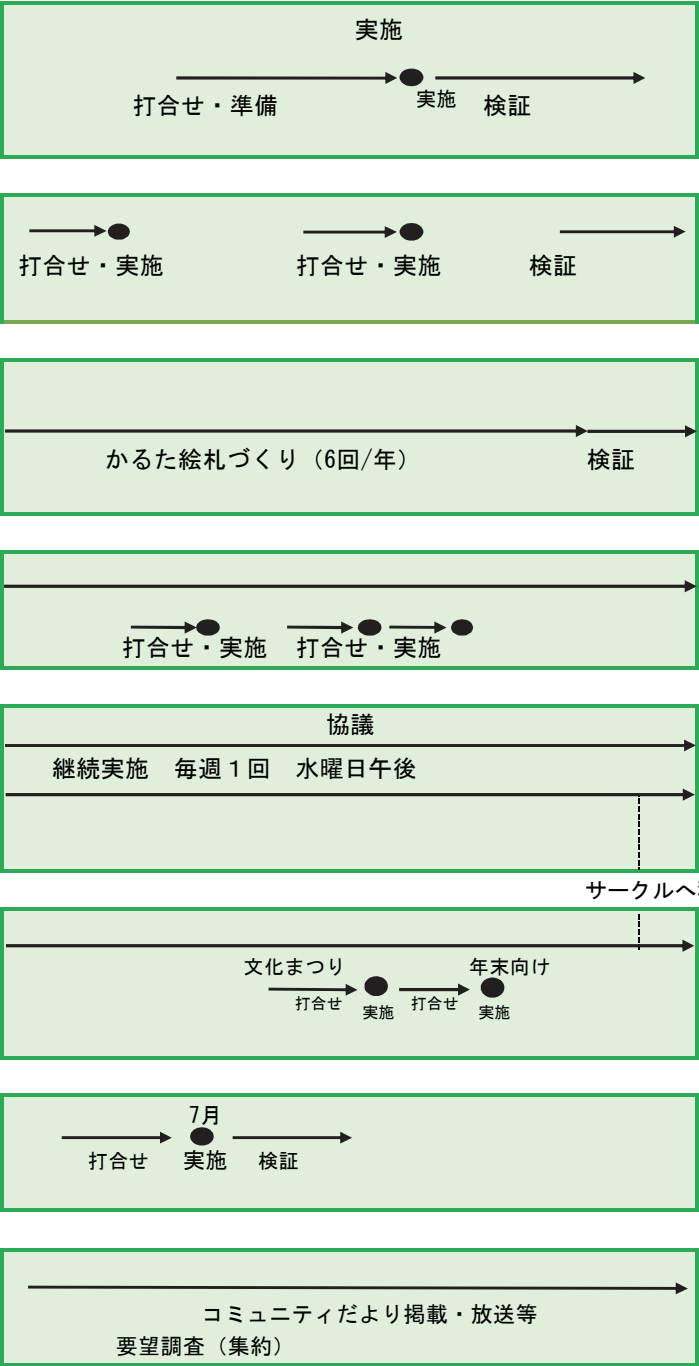
「みんながつながり、みんなで支え合い、
一竹野地区みんな」

方針	部会	課題	目指す将来の姿	取組内容	協力
多様な価値観が守られていて、気軽につながり合う地域	学びと文化部会	交流が少なく地域内のつながりが薄い	多様な価値観を認め合い気軽につながっている	文化まつり (フリーマーケット)	地域団体 学校関係 カフェボランティア
		若い人との交流が無い	世代を超えた交流が出来る	料理教室	講師
		竹野の魅力が忘れられている	より竹野を知り、ふるさとの良さを自分の言葉で話せる人が増えている	竹野かるたづくり	小中学校 PTA会長 こども園 子育てセンター
		高齢者の生きがい / 学びの場づくり	高齢者が生きがいを 持って学んでいる	竹野学園	老人会
		デジタル弱者の増加	みんながデジタル社会に対応することで、より暮らしの利便性や快適性が高まる	パソコン教室	講師
		交流が少なく同じ趣味の人との出会いがない	共通の趣味を通じた交流がある	フラワーアレンジメント教室	講師
		地域づくりをしていることを子どもたちが知らない	地域づくりに関心を持つ人が増えている	ふるさと竹野出前講座	竹野中学校
		伝統行事の継承が困難	住民の声を聞き竹野の伝統文化が守られている	伝統や文化的な事業の協力応援、広報	関係団体

笑顔がいきかう竹野地区」を実現するために なで取り組もう！ー

令和4（2022）年度スケジュール表

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月



スケジュール表（10年）

1年 2年 3年 4年 5年 6年 7年 8年 9年 10年

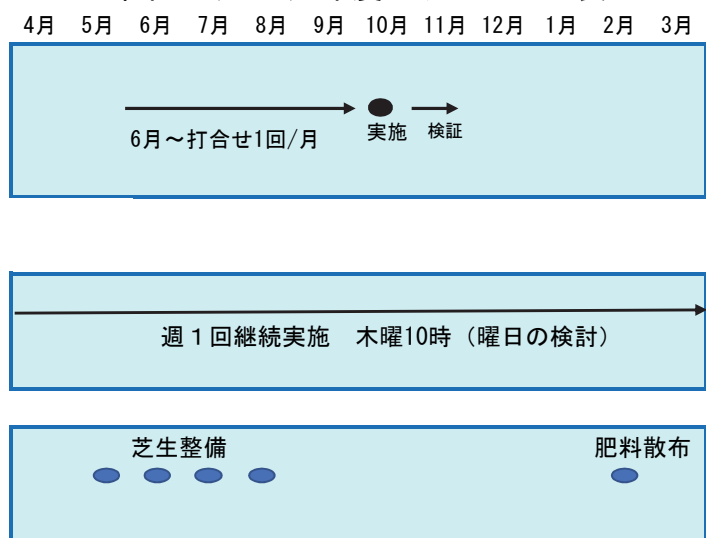


幹事、部会長
副部会長を中心に見直し

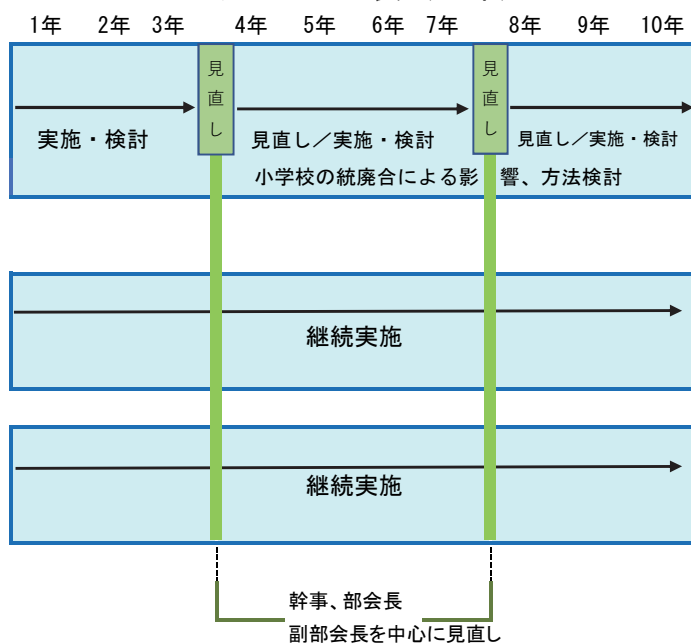
方針	部会	課題	目指す将来の姿	取組内容	協力	
多様な価値観を認め合い、気軽につながり合う地域	すこやか体育部会	交流が少なく地域内のつながりが薄い	多様な価値観を認め合い気軽につながる	体育まつり	竹野小、中学校	
		注）体育まつりについては、竹野地区区長協議会及びコミュニティたけのにて実行委員会を組織し、実施する。				
		加齢による心と体の弱まりが増えている	集まり楽しんで体操し、健康に暮らしている	玄さん元気教室		
		コミュニティセンターに子どもが遊べる場所が無い	竹野庁舎に来た親子が外でも楽しく遊んでいる	竹野子育て芝生広場管理		

方針	部会	課題	目指す将来の姿	取組内容	協力
生活環境が維持できている地域が安心して帰宅を待てる環境が整っている地域	支え合う福祉と防災部	安心して暮らし続けられるか不安がある	地域で見守る体制が整い、安心して暮らせる	要支援者把握などをするための支え合いマップ推進、啓発など	各地区 民生委員 民生協力委員 福祉委員
		地区全体での防災活動において人材の確保が十分にできていない	体制、人材育成が進み、安心して暮らせる	防災研修会/救命救急講習会	消防署
		区でいつまで日役をこなせるか不安	生活環境が維持できている	区で日役ができなくなった場合の仕組みづくり	区長
		買い物、通院など移動手段が少なく不便	買い物、通院など不安なく生活できる	買い物サービス等生活情報の広報	区長・社協
		気軽に集う場所が無い	交流の場がある 相談の場がある	やませみカフェ/ ニーズ調査	社協

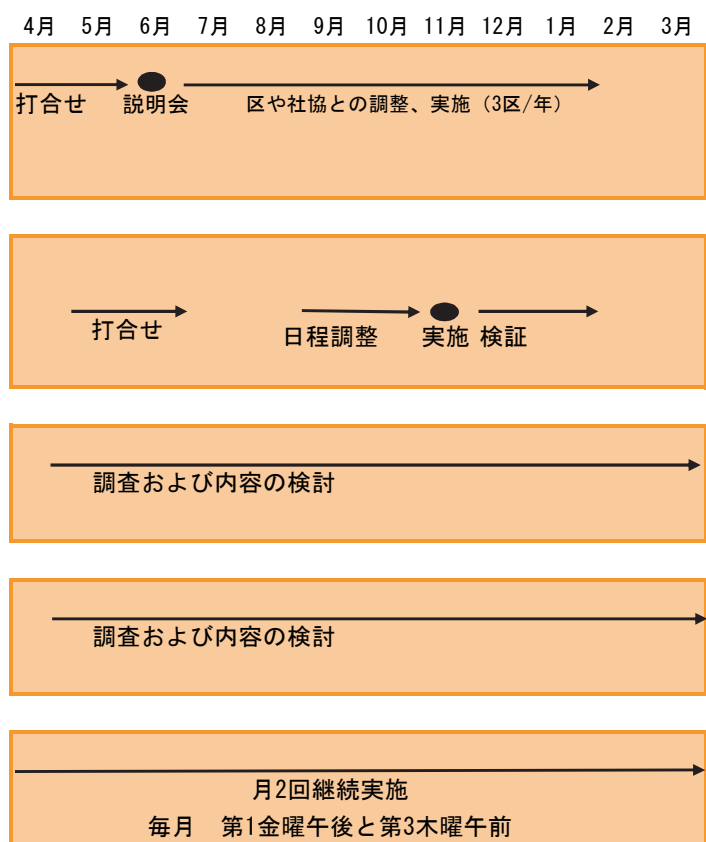
令和4（2022）年度スケジュール表



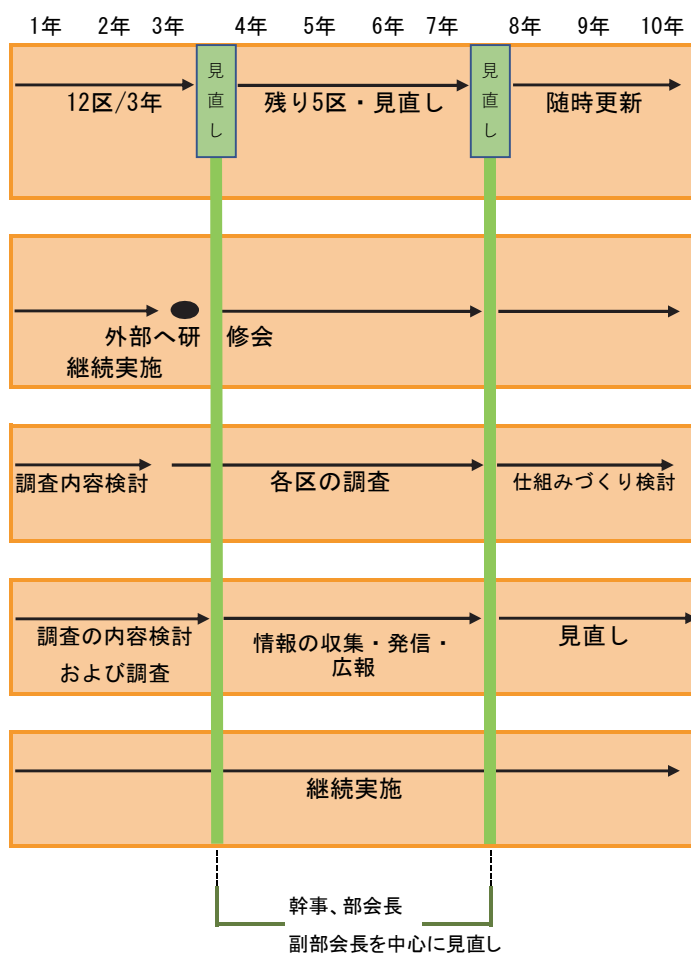
スケジュール表（10年）



令和4（2022）年度スケジュール



スケジュール表（10年）



5. 残された課題

(1) 各地域間の連携

令和 4 (2022) 年度から、竹野地域にある竹野南小学校、中竹野小学校が竹野小学校へと、ひとつに統合されます。コミュニティ組織の範囲は各小学校区で、竹野地域では現在 3 つに分けられています。統合後に学校生活を送る子どもたちの意識は、コミュニティ組織の圏域ではなく、竹野地域全体を one 竹野と捉えていくことになります。

コミュニティ組織（竹野、中竹野、竹野南）も互いに連携し合って、各地域での行事やイベントの開催日を調整するなど、今からでもお互いの情報などを交換、共有し調整していくことも考えられます。

(2) 地域に根差した組織の基盤づくり

コミュニティセンターは地域住民の声が届きやすく（届けやすく）集約する場でもあります。竹野地区の現状では、30 代から 50 代の男性や女性など多様な方々にとって参画しやすい場の構築が求められています。何よりもコミュニティ活動は、地域住民が主体となり楽しみながら活動していくという基本を忘れず、持続可能な地域づくりを目指したいと思います。

そのためには、コミュニティだけの自立できる組織として、強くしていかなければなりません。現状では、豊岡市や兵庫県から財政等様々な支援を得て、ようやく歩み出せる程度の基盤が弱い組織です。将来、安定した財源の確保をどのように図り、信用ある組織としていくのか、みなさんの総意と合意に基づいた取り組みが持ち受けています。

(3) 再編後の運用と各組織との連携

新しい組織体制のところで申し上げたとおり、現組織体制下では地域住民を巻き込んだ事業実施の展開にはなり得ていないという自己評価から、このままでは住民を主体とした事業の広がりや深まりを追求し続けることが極めて困難であると判断した結果、組織再編の動きへとつながっていきました。新体制は各行政区からの委員の選出に加え、公募による委員を合わせて組織の要ともいえるべき専門部会を構成するものです。何よりも行政区との連携を重視した組織の在り方を形にしたものであるともいえます。行政区の実情、区民の思いや願いをしっかりと把握し、事業に反映していくことができれば、これこそコミュニティ組織の使命ではないでしょうか。

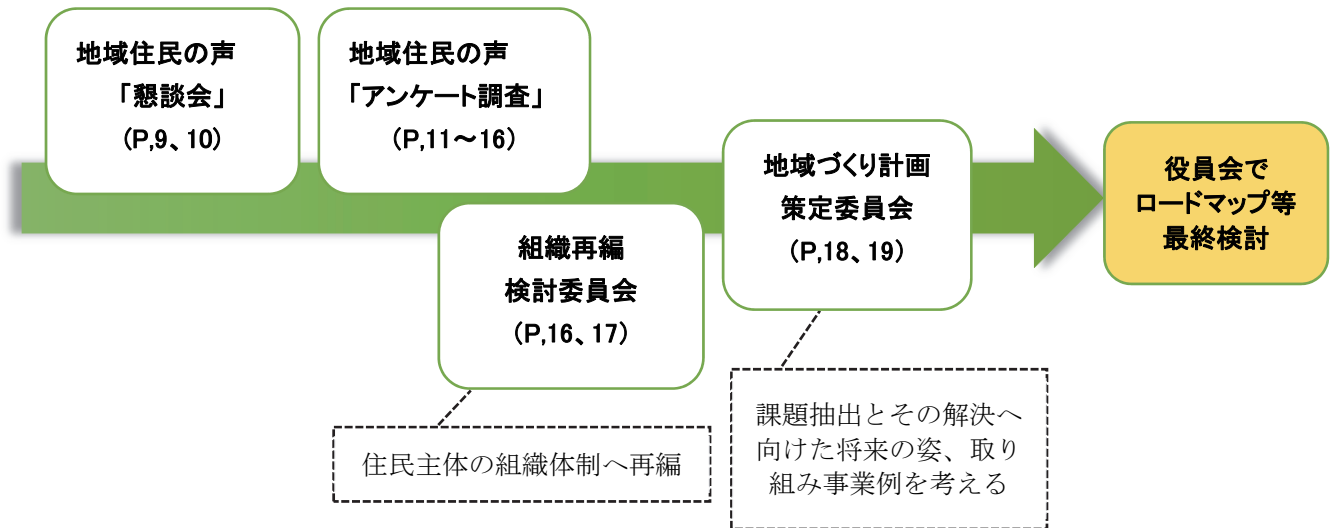
さらに、会員を代表して総会の構成員となる代議員についても、各区から 2 名以上の選出をいただき、組織の最高決定機関であって組織の意思決定をする総会の場に臨んでいただけることは、みんなで考え、みんなで行動する組織の姿を体現することに他なりません。

それには、コミュニティの部会構成から外れたとはいえ、各種団体との関係を密にしながらか共に竹野地域の将来をおもんばかる気運づくりに努める必要があります。それぞれの立場からコミュニティを促進していく主体としての動きに期待するものですが、行政区、各種団体が地域情報の交換や情報共有する機会をつくらなくてはなりません。

これこそがコミュニティ組織に課せられた大きな使命の一つであり、本地域づくり計画の実効性を担保し高めるものであると確信するものです。様々な方の知恵と工夫を持ち寄り、みんなで考え、みんなでつくる地域の創造をめざし議論を深めていきます。

6. 策定の軌跡

地域づくり計画策定までの流れ



令和2(2020)年7月 役員会へ特定非営利活動法人地域再生研究センターより井原友建氏を招聘し、9月から3月にかけて地域づくり計画策定にかかる研修会を実施する。



令和2(2020)年度

組織再編検討委員(敬称略)

宮田真一、下地伸幸、片山義嗣、山根秀次、米田達也、與田政則、久田和幸、安田早苗



令和3（2021）年度

地域づくり計画策定委員（敬称略）

田中健太郎、向井美紀、三石季代、織田恭平、下地伸幸、服部恵山、丹下芙蓉、伊藤遥香、山根秀次



◆計画策定にご協力をいただいた関係機関

兵庫県但馬県民局地域政策室地域づくり課、豊岡市コミュニティ政策課、豊岡市社会福祉協議会、一般社団法人ちいきのて、特定非営利活動法人地域再生研究センター